

散播密植したソルガムの放牧草地としての可能性

○我有 満・桂 真昭・高井智之・松岡秀道・中西雄二・小楨陽介¹⁾・橋爪 健¹⁾
(九州沖縄農研・¹⁾雪印種苗)

【目的】

ソルガムの散播密植による雑草抑制効果やロールベール適性が明らかにされ、ソルガムを高栄養・高乾物収量のグラスとして利用する方法が確立されつつある。ここでは高消化性 (b m r) 品種を含む4タイプの品種を散播密植してソルガム放牧における採食量、生育量等の品種間比較を行い、放牧利用の可能性を検討した。

【材料および方法】

九州農研(合志市)において、タイプの異なるソルガム4品種(ヘイスーダン(スーダングラス)、高糖分ソルゴー(高糖性ソルゴー型)、九交BMR(九州農研育成の高消化性スーダン型)、BMRスイート(高消化性スーダン型))を無除草剤条件で散播密植して草地を造成し、肉用牛4頭による放牧試験を実施した。

播種量は雑草抑制に必要な密度確保のため200粒/m²相当量とした。播種日は2006/6/16、放牧日は2006/8/14-16(1番草)および2006/9/25-26(2番草)、施肥量はN:P₂O₅:K₂Oを10:10:10(kg/10a)とし、1区面積を24m²、反復数2とした。

採食量は、放牧前後の1m²当たりの草量を測定し、その差で推定した。

【結果および考察】

散播密植することで概ね雑草混入の少ない草地が造成できた。1番草において、生育量は、九交BMRが最も多く、これに続きBMRスイート、高糖分ソルゴー、ヘイスーダンの順となった。採食量は生育量と連動したが、高消化性品種が多い傾向であった。一方、ヘイスーダン、高糖分ソルゴーの採食量は少なく、特に高糖分ソルゴーは採食割合が低かった(図1)。2番草においては、生育量はBMRスイートが最も多く、これに九交BMR、ヘイスーダン、高糖分ソルゴーが続いた。採食量は1番草と同様に高消化性品種が多く、ヘイスーダン、高糖分ソルゴ

ーは少ない傾向であったが、高糖分ソルゴーの採食割合は高かった(図2)。番草込みの採食割合は高消化性品種が高く(図3)、採食量は最も多い九交BMRで800kg/10aを超えた。

適品種選定、栽培法、放牧管理法等の改良の余地は大きく、ソルガムによる放牧の可能性はあると考えられる。

